

学会発表渡航支援報告書

(ふりがな) 氏 名	にしかわ じゅんじ 西川 純司	所属・職名 京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程
e-mail	junji-nishikawa@d05.mbox.media.kyoto-u.ac.jp	
発表題名 (英語)	Inclusion and exclusion in the urban space: A case study of convenience stores in modern Japan	
著者名	Junji Nishikawa	
会議名 (英語)	2009 ISA-RC21 Sao Paulo Conference Inequality, Inclusion and the Sense of Belonging	
開催地(国、市)	Sao Paulo, Brazil	
参加期間	2009年 8月 23日 ~ 8月 25日	

報告者は、COEによる学会発表渡航支援を受けて、2009年8月23日から25日にブラジルのサンパウロで開催された、ISA-RC21 Sao Paulo Conferenceに参加した。セッション 08-A「Contemporary Urban Environment: public space or private planning? Trends and tentions」では、Manoel Alves 教授と Cibele Risek 教授の司会のもと、3名による報告が行われた。最初の報告者からは、ハリケーンに見舞われた後の New Orleans の復興過程について、再都市化 (re-urbanization) および私有化 (privatization) との関連から報告がなされた。次の報告者からは、D. Harvey の理論の検討を通じて、都市における公共空間の考察がなされた。そして、最後に報告者による報告がなされた。

報告者は、日本のコンビニエンスストアを事例に、都市空間における包摂と排除について報告した。近年、地方自治体との連携のもとで、コンビニエンスストアによる地域防犯活動 (セーフティステーション活動) が展開されている。このコンビニエンスストアと地方自治体との「官民協力体制 (public-private partnership)」の構築は、都市空間における公的アクターと私的アクターの役割分担の再編成をもたらす可能性がある。本報告では、このように変容しつつあるように見える都市空間においてコンビニエンスストアの実践がもつ意味を、特に排除の実践の観点から、報告した。とりわけ、地域防犯活動の実践が、ホームレスの公共的なサービスへのアクセスを制限していることが明らかにされた。

報告者の報告の後、質疑応答が行われた。本報告に対しては、いくつかの質問がなされた。まず、Manoel Alves 教授からは、今日の都市空間の状況に対して報告者がとる立ち位置について、質問が寄せられた。また、サンパウロ大学の学生からは、セーフティステーション活動の成立の背景についての質問がなされた。この質問に対して、報告者は、2005年からコンビニエンスストアによって実施されたこの活動が、実質的には1990年代半ば以降に警察によって推進されたものである

### 学会発表渡航支援報告書

ことを説明した。さらに、Cibele Risek 教授からは、公共空間とホームレスとの関係についての質問が寄せられるなど、活発な議論が展開された。

また、セッション終了後も、サンパウロ大学の学生と個別にやりとりがなされるなど、全体的に有意義な議論をもつことができた。



Opening Sessionの様子